



第 8 号  
2008 (平成 20) 年 05 月 20 日  
映画英語教育学会 九州支部事務局 発行

〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井堀 1-3-5  
西南女学院大学 人文学部 八尋春海 研究室  
TEL/FAX: 093-583-5720  
E-mail: kyushu\_office@atem.org  
URL: <http://www.atem.org/kyushu/index.html>  
編集: 與古光 宏・浦田 毅彦・中村 茂徳

### Contents

Page 1	巻頭言	Page 2	第 9 回支部大会ルポ	Page 3	映画『ヨックカ』 / 第 14 回全国大会案内
Page 4	第 12 回 STEM 大会誌	Page 5	映画の『北ア』 / 第 10 回支部大会案内	Page 6	出版案内 / 新会員自己紹介
Page 7	会計報告 / 編集後記				

## いよいよ ATEM 九州支部は 10 周年を迎える

映画英語教育学会 九州支部  
事務局長 八尋 春海 (西南女学院大学)

ATEM 九州支部が設立されて、もう 10 年になります。

では、10 年前に時間を戻しましょう。この頃に存在したのは、東海支部のみでした。東海地区は、当時の本部事務局であるスクリーンプレイ社 (現在はフォーイン) のお膝元であり、支部の設立準備はもとより、資金、事務作業にいたるまで同社が全面的にバックアップしてのことでした。支部設立は面倒な作業なのです (理事が何人もいる関東でさえ、支部がまだできていません)。会員も少なく、理事も 1 人 (高瀬先生) しかいない当時の九州地区は、大きなハンディがありました。しかし、たまたま理事であった高瀬先生が私の大学時代の友人 (当時はお互い呼び捨てで呼び合う関係) であったため、エネルギーの余っている 2 人で、何とか九州支部を設立しようという話になりました。

実は、このさらに 1 年前 (つまり今から 11 年前) に、私は東海支部フェスティバルに行き、そこでまだ面識のなかったスクリーンプレイ社の鈴木社長 (当時は理事でもあった) に面会を求めました。「スクリーンプレイ社から本を出させてください。私は近々、九州支部を設立しますよ」と一方的に告げました。私の言ったことは、どちらも無謀なことであり、社長は露骨にあきれた顔をしていました。そしてすぐに社長は、たまたま近くにいた高瀬先生に、「いきなり変なこと言うあの男は一体何者か?」と私のことを聞いたのです (と、高瀬先生が後で証言)。しかし、1 年後

には、後に支部のメンバーとなる人たちも巻き込んでスクリーンプレイ社から『映画で学ぶアメリカ文化』 (同社のロングセラー) を出し、予告通りに支部も設立することになったのです。

支部設立の準備における最初の作業は、自分たちの知人に (支部設立に必要な 10 名の) 発起人となってもらうことでした (まずは、すぐに入会してもらう必要がありました)。高瀬先生と発起人のリストを作成する過程で、偶然にも、(現在は関東在住の) 中谷先生が共通の知人ということが判明し、彼も加えて 3 人が中心となって当面の支部運営をしていこうということになりました。

この 3 人の共通点は、同級生ということだけではありませんでした。3 人はそろって、元気で宴会好きで、ストレートで大学院に行っていないのに大量の研究業績を稼ぎ、学会の良い雰囲気作りにこだわりがありました。このような 3 人の共通の特徴が、そのまま支部の運営にも反映されることになったのです。雰囲気の良い研究大会で、気楽に研究発表をすることができ、楽しい宴会が目白押しで、会員が参加する出版物を数多く発行しているのは、このような流れの中にあります。

ただ、残念なことに、中谷先生に続き、同じく発起人であった多賀先生も福岡を去ってしまわれました。今、私が強く思うことは、二人がいつの日か九州支部に来られた時には、これまでとは変わらないいつもの支部の雰囲気でお迎えしたいということです。支部の未来が楽しみです。

## 第9回支部大会ルポ

昨年の9月1日(土)、副支部長のお一人である秋好先生の勤務校である福岡大学にて、第9回を迎える九州支部大会が開催されました。

私事で恐縮ですが、学生時代にESSに所属していた私は、福岡学生英語連盟の各種行事で、この福岡大学へ足を運んでおりました。最後に訪れてから早11年。2005年2月には、福岡市営地下鉄七隈線の開通で「福大前駅」が開設されるなど、周囲の風景は変わりましたが、今回の会場となった8号館の教室は、11年前の姿そのままでした。

さて、今回の支部大会の特別イベントは、2002年5月の第4回大会以来、実に久しぶりに開催されたシンポジウムです。

今回は、『映画「プラダを着た悪魔」を試着する』をテーマにして、4名の先生方がパネリストとして登場。女性学(福岡国際大学・今田先生)、美術(西南学院大学・ドーハティ先生)、アメリカ文学(福岡大学・秋好先生)、英語学(福岡女学院大学短期大学部・中島先生)という4つの視点からのアプローチは、切れ味鋭い上に「なるほど!」と思わず膝を打つような、実に新鮮な分析の連続でした。この映画が未見の私も、一度“試着”...まではまあ難しいとしましても(笑)、男性としての立場からも一見の価値は大いにある作品であることを実感し、勉強になりました。

続いて行われた、メインの研究発表では、今や九州支部とはすっかり昵懇の間柄となった関西支部より、今回も支部長の藤枝先生(京都外国語大学)、角山先生(広島国際大学)がご参加下さいました。

前半の部に登場され、それぞれ「映画で学ぶ『仮定法もどき』表現」「映画を主教材とした言語機能別シラバスの実践」についてご発表なされた両先生。共通していたのは、聴衆に盛んに問題を投げ掛けて参加を促すワークショップ型の発表であったことです。PCのちょっとした“気紛れ”もありましたが、「仮定法ニュアンスの指導における映画活用の有効性」(藤枝先生)、「初級・中級レベル学習者向けの映画教材の必要性」(角山先生)を、肌で感じさせる明快なご発表でした。

休憩後の後半の部に登場なされた石橋先生(福岡教育大学附属福岡中学校非常勤)、小林先生(福岡県立中間高等学校非常勤)のご発表は、前半の部から一転して、中学校・高等学校の英語の授業における映画の活用に関するものでした。

まず、石橋先生は、「映画を利用した4技能統合の教育理念とその実践」というタイトルで、映画の效能および4技能との関連に注目した上で、実際の中学校の授業での、映画を取り入れた詳細な指導案を提示されていました。一方、小林先生

は、「中高生に映画で伝える人生～Words of Mentors」と題して、高校生用の英語教科書に登場したスポーツ選手に関するドキュメンタリー映画を活用して、英語は勿論、プロフェッショナルから「漠然とした不安に立ち向かう勇気」を学ばせるという斬新な切り口。生徒の心を育てるために映画の名台詞に注目するという、映画活用の幅広い可能性を示して下さいました。

そうそう、忘れてはならないのが、九州支部大会名物の「映画オタクコンテスト」。今回も、事務局長の八尋先生(西南女学院大学)による出題でした。

「今回は“簡単”です。アカデミー賞受賞作品からピックアップした名場面特集です」という、八尋先生のアナウンスの下、比較的リラックスして臨んだ私たちを待ち受けていたのは、スクリーン上であれよあれよと言う間に切り替わって行く、予想を上回る難問揃いの“名場面”の数々。私を始め、参加者の皆さんが意外な苦戦(!)を強いられたのは、言うまでもありません。

次回の支部大会でのコンテストも楽しみな一方で、「眼力」をしっかりと磨いておかななくては。

(文責：與古光 宏)



懇親会終了後に、出席者の皆さんと  
(撮影：延命先生 [福岡県立福岡中央高等学校])

## 映画ショッキング Vol. 08

～笑いは百薬の長！？～

かつてこのコーナーで今田先生が書いていらっしやったように(人間の本质は別として)、映画の好みというのは、生活変化や年齢によって変わるものだというご指摘は、本当にその通りだなと思います。大方の会員の皆様とは異なり、育児中心の生活を続けている私は、生活のほとんどを子どものペースに合わせなければなりません。そのような状況で、映画館に足を運んで2時間程度の映画を観るなどということは、私にはほとんど不可能に思えます。正直、それだけまとまった自由な時間が持てるとしたら、映画を観ることは、優先順位のそれほど上位には来ないでしょう(映画嫌いの夫とは映画館でデートした経験もありません)。そんな私が映画に期待することは、ただ一つ、「笑い」です。お金を出してまで、気持ちがふさがってしまったり、涙を流して後で疲れてしまったり、怖い思いをしたりする映画を観る気にはなれません。恋愛物もダメ。ドキュメンタリーや事実に基づいた映画であればともかく、個人的に現実っぽいフィクションは、どうしても白々しさがつきまとい、心が動かされません。が、同じフィクションでも、コメディならば(ラブコメディも含め)大丈夫。何が起っても、コメディの世界のことであれば許せます。観終わったときに「あ～、おもしろかった。笑すぎておなかが痛くなっちゃった！」と思えるくらいハチャメチャなものの方がむしろいいのです。『パッチ・アダムス』の中で医者見習いのパッチも言っていたように、笑うと免疫力が高まります。お酒を飲めない私が求めるのは、(たぶんお酒みたいに)爽快な気分させてくれる、そのような笑いの効能なのです。

オススメは、ジム・キャリー主演の『라이어、라이어』。世界的にも評判の悪い、アメリカの弁護士を皮肉った映画です。ウソばかりついていた弁護士である主人公は、父親がウソをつけなくなりますようにと息子が祈ったところ、本当にウソがつけなくなり、あちこちで笑えるトラブルを引き起こしていきます。何はともあれ、ジム・キャリーのアドリブを交えた抱腹絶倒の演技が、この映画の面白さを支えています。自分が握っているペンの色についてさえ嘘を言うことのできない主人公は、たかがペンの色をごまかそうとするために、もがき苦しみ、身をよじるのです。この場面では、設定のアホらしさに加え、それを見事に表現しているジム・キャリーの演技に、本当に笑わずにはいられません。ちなみに、映画本編もさることながら、本編終了直後の NG 集でも、彼のアドリブ演技のおもしろさを十分に楽しむことができます。みなさん、オススメのコメディ映画があれば、ぜひお教えてください。「笑い」は百薬の長ですから！

次回は、市川先生をお願いします。

(八尋真由実)

## 第14回全国大会のご案内

第14回 ATEM 全国大会は、下記のように開催されます。

日時：2008年6月21日(土)

午前9時30分～午後17時30分(予定)

会場：創価大学

東京都八王子市丹木町1-236

今大会は「映画英語の諸相を探る」をテーマとし、映画英語の様々な面や、英語教材としての無限の可能性について、知的好奇心をかきたてられる講演や発表が予定されています。詳細につきましては、九州支部と本部、双方のHPで随時情報を更新していきますのでご参照ください。

(本部HP：<http://www.atem.org/atem07/>)

(文責：秋好 礼子)

## 第12回STEM大会レポート

2008年度のSTEM大会は、崇実大学校 (Soongsil Univ.) に於いて、4月19日(土)に開催された。今年も、第3土曜日の実施であったが、これからもずっと、この時期に開催される予定である。ご存じの方もおられると思うが、韓国の新学期は3月であり、日本よりも1月ほど早い。日本は新学期が始まったばかりで、いろいろと忙しい時期ではあるが、他の学会と研究発表大会が重なることはほとんど無いので、校務に余裕があれば参加可能な時期といえよう。

今回は、九州支部から中島支部長、本部国際交流委員長の秋好副支部長、今田副事務局長、篠原HP副編集長、熊抱運営委員、ドーハティ運営委員と高瀬の7名が参加した。関西支部からは、倉田副支部長と井村副支部長。東海支部からは、窪田理事。その他、磐崎会長とウォルター理事が参加した。ATEMからの参加者数は12名であった。今年、例年よりも少ない人数である。

大会では、九州支部から基調講演を“The Devil Wears Prada: Showcasing a Multi-Faceted Approach to Movies in the EFL Classroom”というテーマで、今田先生、ドーハティ先生、秋好先生、そして中島先生の4名の先生方がされた。基調講演にふさわしい内容と観衆を飽きさせない面白さで、STEM大会を大いに盛り上げた。

例年の基調講演でつくづく思うのだが、ATEMからの基調講演は、STEMのものと比較すると、発表内容、観衆を引きつける面白さ、発表の仕方等は、優れており、STEMには全く負けていないと思う。

ただ、STEM大会での研究発表に関しては、ATEMのものとは遜色はほとんど無いまでに、レベルが上がってきている。STEM大会の最初の数年は、研究発表の内容は映画と関係のないものがあったり、英語でのプレゼンテーションが少なかったり、内容はATEMとはとても比較にならないほどであった。しかし、STEMの研究発表が格段に良くなっている現状を考えると、日本からSTEM大会での発表やSTEMジャーナルへの投稿に関して、安易にOKを出すのではなく、日本側での審査を経たからの発表ということも必要なことになってくると思われる。

最後に、STEMからの歓待は、いつもながらまるでVIP扱いであり、食事や観光、そして空港への送迎まで、全て行ってくれる。今回の宿泊は、ソウル大学校内のHoam Faculty Homeという会場。レストランも併設されていて、まるでホテルのようであった。何かSTEMに恩返しができないかと、STEMの方々と接するといつも考える。

(文責：高瀬 文広)



👉 今回、STEM大会には九州支部から7名の先生方が参加されました。写真は、その内4名の皆さんです。

(左から) 今田先生、熊抱先生、高瀬先生、秋好先生



👉 大いに盛り上がった懇親会風景  
(撮影：高瀬先生 [福岡医療短期大学])

## 映画のトリビア Vol.08

### ～ピーターラビットの故郷～

世界中で最も有名で愛されているうさぎのピーターラビットの故郷は、英国イングランド北部に位置する湖水地方である。湖水地方は、山や溪谷、400以上もの大小の湖、そして羊が草食む田園風景と縦横に走るフットパスがあり、多くの観光客を魅了している。ピーターは、そのような美しい景観を有する小さな農村で生まれたのである。

2007年秋に日本で公開された「ミス・ポター」は、ピーターを書いたビアトリクス・ポターの半生を描いた映画である。湖水地方を一度訪問した人ならば、ウィンダミア湖周辺の風景やニア・ソーリー村の景色が懐かしく思い出されることだろう。

湖水地方は、現在、英国屈指の観光地として世界中で名を馳せているが、その観光地としての歴史は18世紀末、ロマン派文学が誕生する頃に始まる。18世紀中葉以前は未開の地であったが、ヨーロッパ大陸のグランドツアーや英仏戦争の影響により、観光旅行は英国国内に目が向けられた。それまで不毛の地とみなされていた自然だが、ウエストやギルピンなどのガイドブックの流行と共に人気を得ていく。特に湖水地方は、ウィリアム・ワーズワスの「湖水地方案内」によって英国国内に知れ渡ることになる。

湖水地方にも、やがて1840年代以降、鉄道の普及によって開発の波が押し寄せてくる。そのような開発に反対したのがワーズワスであり、その意志を継いだのが晩年湖水地方で居を構えて活動していたジョン・ラスキンであった。さらに、その2人の影響を受け継いだのが湖水地方の牧師キャノン・ハードウィック・ロンズリーである。ロンズリーは鉄道の延長計画に反対し、湖水地方の一部の土地を買い取る運動を展開したのであった。この運動こそ、現在ヨーロッパで最大の資産を有する環境保護団体と呼ばれるナショナル・トラストの第1ページであると言われている。彼はナショナル・トラストの設立者3人の1人でもある。

そして運命というか、ビアトリクス・ポター一家が避暑地をスコットランドからこの湖水地方に移した時に会ったのがロンズリー牧師であった。彼は少女ポターの絵の才能を奨励し、伝統的自然の景観美や地域保存の重要性についてポターに語り影響を与えた。やがてポター死後、遺産はナショナル・トラストに寄付されることになる。その遺言状には、「現在のまま保存」ということが明示された。ヒルトップの庭や菜園の植生は当時の品種のまま再現されている。言い過ぎかもしれないが、19世紀後半の湖水地方の文化が今でも息づいていると言えよう。ヒルトップを訪問した人は絵本のままの世界に入り込め、ひょっとしたらピーターに出会えるかもしれない。(中村 茂徳)

(参考図書：BEATRIX POTTER AND HILL TOP Judy Taylor 1989)

## 第10回九州支部大会案内

第10回 ATEM 九州支部大会を、下記のように開催致します。昨年度は福岡大学で開催しましたが、本年度の支部大会は福岡医療短期大学で下記のとおり要領で行われます。大会後は、暑気払いを兼ねて懇親会で大いに盛り上がりましょう。多くの方々のご応募をお待ちしております。

日時：**2008年9月6日(土) 13時より**

### 特別イベント開催決定

プロのジャズ歌手・うしじまあおいさんによる、ジャズコンサート  
(恒例の映画オタクコンテストも実施)

会場：**福岡医療短期大学 (303, 305, 307 教室)**  
(会場担当者：高瀬 文広)

住所：福岡市早良区田村 2-15-1  
(福岡市営地下鉄七隈線・次郎丸下車、徒歩)

懇親会：場所未定。会費¥4,000 程度。

### 発表応募要領

申し込み締め切り：**2008年7月20日(日)**

申し込み先：(事務局長 八尋 春海 宛)

・E-mail：kyushu\_office@atem.org

・郵送、FAX：

〒803-0835 北九州市小倉北区井堀 1-3-5  
西南女学院大学 人文学部 八尋 春海  
電話 & Fax：093-583-5720

### 記載事項：

1. 発表者名(ふりがな)・所属先名・職名
2. 連絡先(E-mail アドレス含む)
3. 発表タイトル
4. 発表概要(日本語発表：日本語で400字、英語発表：英語で200words程度)
5. 使用機器(開催校で準備できない場合もありますので、要相談)

\*発表時間は質疑を含めて30分間です。

(文責：高瀬 文広)

## 九州支部会員 出版案内

### 『人・言葉・社会・文化とコミュニケーション』

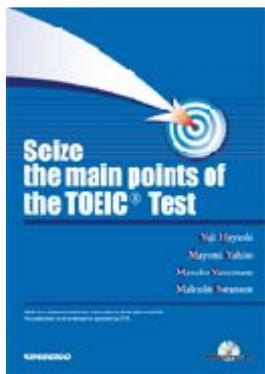
(清水 孝子、畠山 均、八尋 春海 他編著 / 北樹出版 / 2,415 円)

これは、「一般書並みに分かりやすく」を目標に書かれた論文集です。収録されている内容は、言語学的な意味でのコミュニケーションは言うまでもなく、社会学、歴史学、心理学、政治学などさまざまな分野の学問と関わりをもったものなどがあり、学際的な色彩が強くなっています。

コミュニケーション研究は映画英語教育研究の近接分野であり、本学会員にも刺激になるようなものも数多く含まれています。

### 『ターゲットとポイントで学ぶ TOEIC テスト』

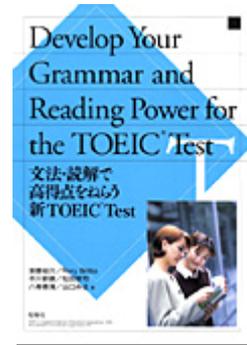
(林 裕二、八尋 真由実 他編著 / 金星堂 / 1,900 円)



これは、11 名もの九州支部の会員が執筆陣に加わった TOEIC の学習教材です。昨年度の大学の英語テキストでベストセラーにもなっています。なぜ売れるかと言うと、執筆の中心メンバーが TOEIC で 900 点以上を楽に獲得している先生たちであり、教授法のコツを知っているということ、そしてかゆいところに手が届く教授用資料が充実しているという 2 つの点が挙げられます。

### 『文法・読解で高得点をねらう新 TOEIC Test』

(市川 野康、八尋 春海 他編著 / 松柏社 / 1,900 円)



市川・八尋コンビの 6 冊目となる英語テキストです。これまでは時事英語中心でしたが、今回は TOEIC の学習教材となっています。これまでも 2 人は、教材となる英文にこだわりを持ち、常に興味深いものを選んできました。もちろん今回もその方針を踏襲しています。練習問題に入る前に、20 ページにわたって解法のテクニックを掲載しており、全くの初心者でも戸惑うことなく取り組むことができるようになっています。

(文責: 八尋 春海)

## 九州支部新会員 自己紹介

(五十音順、敬称略)

### ・古賀 雅子 (ギルフォード・カレッジ・オブ・アロマセラピー)

高瀬先生は娘の高校の担任で、私がクラスの PTA 役員でした。高瀬先生に英語を習っていたら私の英語力もこんなにお粗末ではなかった...と思います。

少しでも英語のレベルアップを！と参加させて頂いています。

皆様、英語の基礎の基礎からご指導をお願いいたします。

## 2006年会計報告

2006年 ATEM九州支部会計報告  
(2006/01/01～2006/12/31)

項目	収入
前年度繰越金	423,931
懇親会費	57,000
支部活動費	50,000
印税(「映画が語る現代社会」)	5,785
<b>収入合計</b>	<b>536,716</b>

項目	支出
会議費	9,114
アルバイト代	21,000
郵送費	19,420
懇親会費	54,960
文具代	88
<b>支出合計</b>	<b>104,582</b>

**収入合計 - 支出合計 = 432,134 円** 次年度繰越へ

映画英語教育学会本務事務局での予算年度は、1月1日～12月31日になっておりますので、本支部の会計年度もこれに倣っています。上記の2006年の収支決算書は、昨年の支部運営委員会、並びに支部総会にかけられ、承認されたものです。  
(報告:事務局長 八尋 春海)

## 編集後記

九州支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。この度、編集長の多賀先生がご一家で大阪へ移住されたのに伴い、再び編集長の仕事を仰せつかりました。今回から、新たに中村茂徳先生を編集委員にお迎えして、新体制で刊行して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。  
(與古光 宏)

前号の本欄に書きましたように、Mac版のワードでは厳密なレイアウトが見られない状態でしたが、このたび新しいMacを手に入れ、Windowsが動かせるようになりました。これでレイアウトの崩れのない、快適な編集環境が手に入りました。今後がんばりたいと思います。

(浦田 毅彦)

映画英語教育学会九州支部の10年目の節目に、編集委員となり光栄に思います。今回の編集作業では、與古光先生と浦田先生の手際の良さを

ただただ感心するだけでした。次回から御二人の足を引っ張らないように、頑張りたいと思います。

(中村 茂徳)